

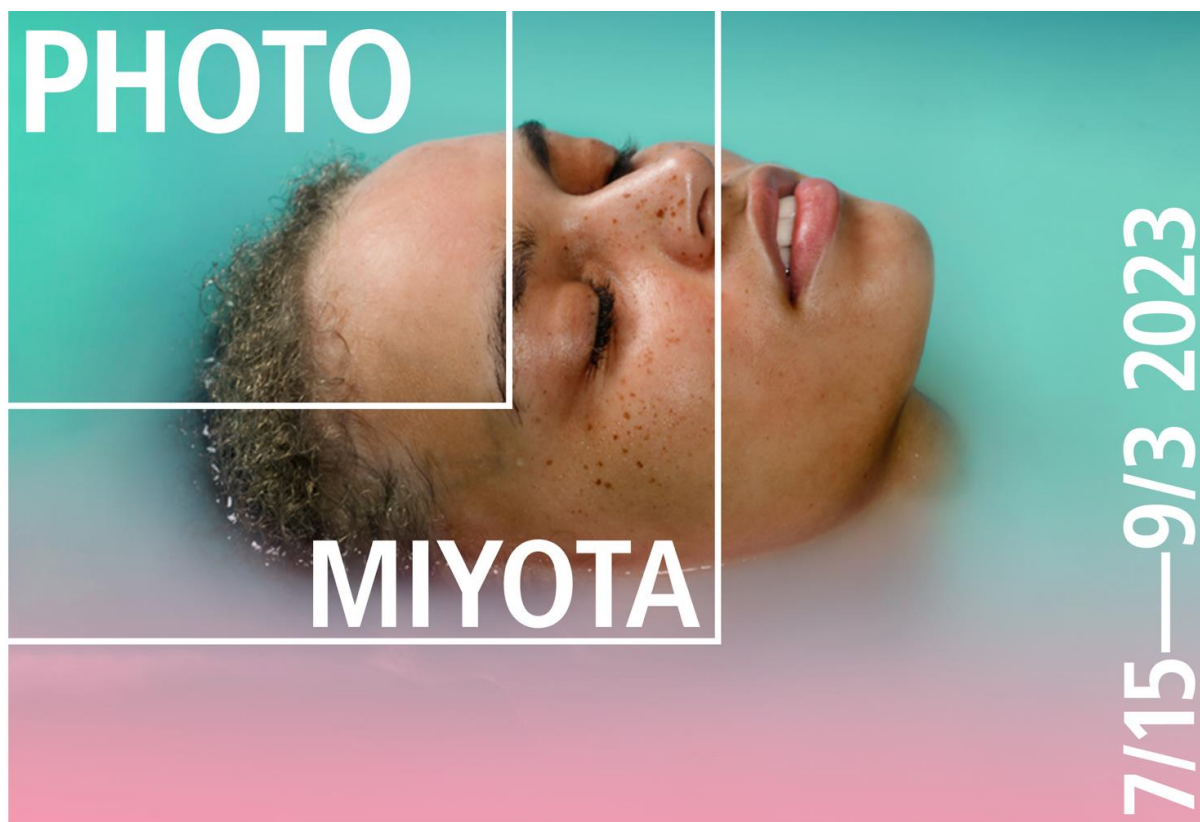
報道関係者各位

2023年7月7日
株式会社アマナ

まもなく開幕！「浅間国際フォトフェスティバル 2023 PHOTO MIYOTA」

アフターコロナに自然の中で楽しむ新しいアート写真体験

～テーマは「イメージの実験場」。17組の写真家による作品展示～



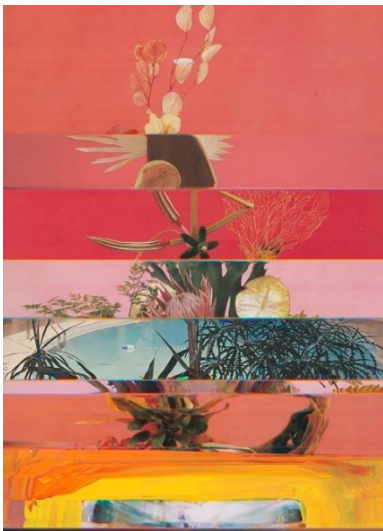
©Christto & Andrew

コミュニケーション変革をクリエイティブで実現する株式会社アマナ（本社：東京都品川区、代表取締役社長 兼 グループ CEO 進藤博信、以下「アマナ」）は、7月15日（土）から9月3日（日）まで、御代田町（所在地：長野県北佐久郡御代田町、町長：小園拓志）と共同で、「浅間国際フォトフェスティバル 2023 PHOTO MIYOTA」を開催します。

「浅間国際フォトフェスティバル 2023」は、御代田町が発信する国内ではまだまだ珍しい郊外型のフォトフェスティバルです。優れた国内外のアーティストによる作品を、浅間山を背景にした自然の中を散策しながら五感を使って楽しむアート写真の祭典として、2018年にスタートし、子供から大人まで誰もが気軽に豊かな写真表現に触れることができる場として愛されています。

今年4回目となるフェスティバルのテーマは、「イメージの実験場」。これまでにない表現を求めた先鋭的な作品表現に加えて、フェスティバルらしいダイナミックなスケールやユニークな支持体を用いた展示インスタレーションの手法に、時代と向き合うアーティストたちの実験的な姿勢が現れています。

↓左からニコ・クリジノ、西野達、グレゴリー・ハルペーン



©Nico Krijno



©Tatzu Nishi



©Gregory Halpern

【展示の見どころ】

今年の目玉となる展示は「イメージの実験場」というテーマに相応しく、アーティストたちが写真を媒介に、被写体やアプローチ、展示方法にこだわって試行錯誤を重ねながら作り上げた先鋭的な作品です。

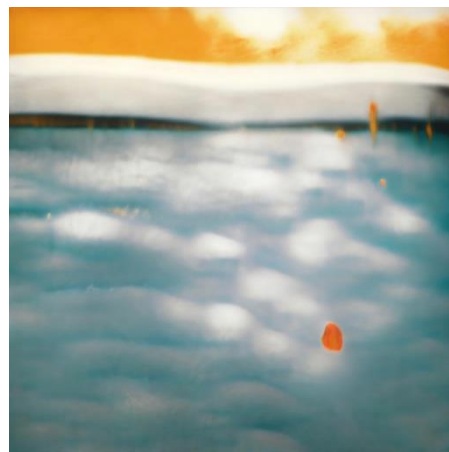
一見ただけでは写真とは思えないもの、制作手法の想像がつかないもの、それまでの物事の見方が大きく覆されるものなど、驚きや発見、価値観の転換など、観る側の心を動かす作品が揃います。そうした初見のインパクトもさることながら、コンセプトや背景を知ることによってビジュアルの裏側に潜むアーティストのインサイトに深く感銘を受けることでしょう。

特に、一見デジタルを駆使したCG作品のように見えて、実はスタジオでの撮影で作上げたハナ・ウィタカーの作品、プリントの上に手仕事の刺繍を施してから高解像度のスキャナーで大きく引き伸ばしたデジタルとアナログのハイブリッドによるジュリー・コックバーンの作品、光の三原色RGBをフォトグラムで可視化した濱田祐史の作品など、現在と過去、リアルとバーチャル、物質と概念を行き来する作品たちには2023年の時代性、そして混迷する時代に提言しようとするアーティストの実験的なスピリッツが表れています。

また鑑賞者の動きを検知して、投影されるイメージが入れ替わっていくという柿本ケンサクと協賛社であるマツダとのコラボレーションや日進月歩で進化するAIにデジタルヒューマンを画像生成させる苅部太郎のポートレート作品など、最新のテクノロジーを駆使した作品にも出会えます。



©Taro Karibe



©Kensaku Kakimoto

その他、会場では、屋内外の写真展示の他にも、写真のワークショップやトークイベントなど、訪れた人も様々な形で参加いただき、写真と遊べる体験型の企画も計画されています。

アマナは、今回のフェスティバルの開催を通じて、浅間山の麓にある御代田町が、MMoPを交流拠点として地域と写真の魅力を世界に向けて発信し続けていけるようサポートしてまいります。

【PHOTO MIYOTA について】

フェスティバル参加写真家

安齋重男（日本）

アントニー・ケアンズ（イギリス）

大辻清司（日本）

柿本ケンサク（日本）

苅部太郎（日本）

クリスト&アンドリュウ（プエルトリコ、南アフリカ）

グレゴリー・ハルペーン（アメリカ）

コンスト（日本）

ジュリー・コックバーン（イギリス）

ドーラ・ライオンストーン（ドイツ）

ニコ・クリジノ（南アフリカ）

西野達（日本）

ハナ・ウィタカー（アメリカ）

濱田祐史（日本）

濱本奏（日本）

マックス・ピンカース&ヴィクトリア・ゴンザレス・フィゲラス（ベルギー、カナダ）

リュウ・イカ（中国・内モンゴル自治区）

* 予定

テーマ

イメージの実験場

ステートメント

加速するデジタル化に加え、CHAT GPT に代表されるような AI の登場により、私たちの日常はデジタルとアナログの境がますます曖昧になっています。写真は、その 180 年余りの歴史の中でテクノロジーの進歩とは切っても切れないメディアとして、常に進化してきました。アート写真のジャンルにおいて、写真家たちの中には最新技術を駆使する一方で、同時に、古い技法やアナログの手仕事なども積極的に取り入れたり、ハイブリッドに掛け合わせたりしながら、新たな表現の可能性を探る人たちも増えています。アーティストたちは、まさに現実と向き合い、イメージを媒介とした実験を繰り返す研究者のような存在なのです。

戦争、災害、人権問題、環境問題、人種、ダイバーシティなど、世界が様々な問題に直面し、混迷するこの時代、今年の PHOTO MIYOTA は、現在と未来を映し出す イメージの実験場 として、国際的

なアーティストたちが新しい気づきを与えてくれる場となることを期待しています。

「浅間国際フォトフェスティバル」とは

「浅間国際フォトフェスティバル」は、浅間山麓の美しい自然の中で、五感で感じられるさまざまな写真体験ができるアートフォトの祭典です。2018年にスタートし、これまでに長野県の御代田町の「PHOTO MIYOTA」、長野原町の「PHOTO KITAKARUIZAWA」、小諸市の「PHOTO KOMORO」など浅間山麓の複数の会場で、それぞれの自治体や地元企業と共同で開催してきました。アマナが発刊するアートフォト専門誌『IMA』のエディトリアルディレクター・太田睦子と共同キュレーターであるアイヴァン・ヴァルタニアンとのキュレーションのもと、国内外の優れた写真家たちの作品を屋内外に展示。さらにワークショップや写真教室など、写真の楽しさを提案する体験型のイベントも実施しています。

▼「浅間国際フォトフェスティバル 2023 PHOTO MIYOTA」開催概要

会 期 : 2023年7月15日(土)から9月3日(日)

水曜日定休(8月16日(水)を除く) *屋外展示は自由にご覧いただけます

時 間 : 10:00~17:00(屋内展示の最終入場:16:30まで)

会 場 : MMoP(モップ) | (住所) 〒389-0207 長野県北佐久郡御代田町大字馬瀬口1794-1

入場料 : 一部有料1,000円(一部建物のみ有料、中学生以下無料)

お問合せ : info@asamaphotofes.jp

主 催 : 浅間国際フォトフェスティバル 2023 PHOTO MIYOTA 実行委員会

後 援 : 長野県、信州大学、一般社団法人長野県観光機構、しなの鉄道株式会社、信濃毎日新聞社

協 賛 : ザ・ロウ、マツダ株式会社、パナソニック株式会社、パナソニック映像株式会社、株式会社ひらまつ、軽井沢ウイスキー株式会社、戸塚酒造株式会社、大井建設工業株式会社、株式会社カネト、日穀製粉株式会社、株式会社遠藤照明、株式会社オクタノルムジャパン、株式会社コックス、信州ハム株式会社、swissQprint Japan 株式会社、ニーチェアエックス、ミネベアミツミ株式会社、株式会社ミューズ・ディ

[実行委員長] 小園拓志(御代田町長)

[副実行委員長] 進藤博信(株式会社アマナ代表取締役 兼 アマナグループ CEO)

[エキシビジョンディレクター] 太田睦子(『IMA』エディトリアルディレクター、アマナ所属)、アイヴァン・ヴァルタニアン(インディペンデント・キュレーター)

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社アマナ | Communication Design Room / 広報・PR 担当：武内、高橋
TEL：090-7819-4897（武内）、070-3892-9259（高橋） MAIL：pr@amana.jp

株式会社アマナ 会社概要

代表者 : 代表取締役社長 兼 グループ CEO 進藤博信
所在地 : 東京都品川区東品川 2-2-43
設立 : 1979 年 4 月
資本金 : 100 百万円
証券コード : 東証グロース市場 2402
売上高 : (連結) 14,165 百万円 ※2022 年 12 月期実績
従業員数 : (連結) 820 名 ※2023 年 1 月 1 日現在
事業内容 : ビジュアルコミュニケーション事業（コミュニケーション領域における戦略・企画立案、ブランドデザイン&アクティベーション、インナーコミュニケーション、コンテンツマーケティング、コンテンツ制作・編集、プロトタイピング、ムービー／グラフィック制作、WEB制作、その他各種プロモーション施策の立案など）
URL : <https://amana.jp/>